1 和歌・短歌

単元のねらい

古代から現在までの短詩型文学（ここでは和歌と短歌）の伝統と特徴を具体的に理解することを狙いとした単元である。伝統的な短詩形のリズムとその表現するイメージや内容を理解する力を養いたい。それぞれの時代における作者の個性的な作風や歌境を理解させ、深く味わせる。五音、七音を基本的韻律とし、どのような心情やイメージがいかに表現されているかということについて感受する力を養う。和歌・短歌がそれぞれの時代の歌人によって受け継がれ、言語文化として現在に至っている様子を学びながら、言葉が喚起するイメージや心情、さらにそこから捉えられる作者の美意識・言語感覚についても考えさせる。

単元の構成

和歌は、『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』という三大歌集に加え、第四勅撰集の『後拾遺和歌集』から代表的な歌人の歌を選んだ。『万葉集』においては東歌や防人歌など歌集の特色を示す歌も入れてある。同時に、和歌の修辞を学ぶ上で参考となる歌もあるので利用できる。

短歌は、短歌・俳句革新運動の先駆者となった正岡子規の写実詠を嚆矢とし、近代歌人として与謝野晶子・若山牧水・石川啄木・斎藤茂吉、また現代歌人として斎藤史・寺山修司・春日井健・俵万智を選んだ。古代から現代に至る歌々が言語文化として途切れることなく続いていることが理解できるよう構成してある。